

第 2 章 ICANN Cape Town 会議

第2章 ICANN Cape Town 会議

ICANN Cape Town 会議は2004年12月1日から5日まで南アフリカ・ケープタウンの国際会議場で開催された。この会議では、定例の各支持組織(Supporting Organization)の会合、AtLarge 諮問委員会、一般討論会(パブリックフォーラム)、理事会の他に IDN(国際化ドメイン名)、WSIS(世界情報社会サミット)、削除ドメインの再登録、をそれぞれテーマとする3つのワークショップ、さらに視覚障害者のインターネット利用に関する会合が開かれた。

2.1. WSIS(世界情報社会サミット) ワークショップ

WSIS ワークショップは2004年12月1日8:30から10:55まで、Auditorium(講堂)Iで行われた。WSISに関するワークショップは、前々回のローマ会合、前回のクアラルンプール会合に続いて3回目である。今回はWSISの枠組みの下で国連事務総長によりインターネットガバナンス・ワーキンググループ(Working Group on Internet Governance : WGIG)が任命された直後にあたり、WGIGの今後の作業に注目が集まるなかで、WGIGの議長Nitin Desai氏とWGIG事務局長のMarkus Kummer氏の参加を得ての開催となった。

まず始めにWGIG議長Nitin Desai氏とWGIG事務局長Markus Kummer氏により、WGIGの構成や作業目標、作業計画、現在の作業の進行状況などが紹介された。これはWGIGの活動に関してICANN参加者の理解を得るための説明という性格を持つもので、特に議論を呼ぶような内容ではなかった。

続いて「アフリカ地域におけるインターネットガバナンス」というテーマで、パネルディスカッションが行われ、アフリカの各組織代表によるプレゼンテーションと意見交換があった。この部分は開催地の地域性を反映させる意味があったと考えることができる。WSISでの議論とは、情報社会における地域格差という観点で関係が生じてくるが、進行中のWSISのプロセスに大きく影響を与えることを意図した発言は特に無かった。

最後に、WSIS Workshop Planning Group membersによる"ICANN Stakeholders' Role in Internet Governance"というパネルディスカッションが行われた。

パネリストは以下の通り。

Mr. Vittorio Bertola, At-Large Advisory Committee

Mr. Izumi Aizu, At-Large Advisory Committee

Ms. Marilyn Cade, Business Constituency

Mr. Tony Holmes, Internet Service & Connectivity Providers Constituency

Mr. Peter Dengate Thrush, InternetNZ (ccTLD)

Mr. Paul Wilson, Number Resource Organization (RIRs)

ここでの議論は、ICANN がいわゆるインターネットガバナンスにおいて果たすべき役割に関して冷静な意見交換が行われたと言えるが、その他、ITU の Zhao 氏が IPv6 のアドレス管理に関して最近発言していることに関して、憂慮の念を表明するパネリストがいた。Zhao 氏は WGIG のメンバーではないが、Zhao 氏の発言が WGIG 内での議論に影響を及ぼすことを懸念して、この場でこの話題を取り上げたものと思われる。

総じて、ICANN 参加者に対する WSIS と WGIG の現状説明として有用であったと考えられる。

2.2. IDN(国際化ドメイン名) ワークショップ

IDN ワークショップは 2004 年 12 月 1 日 13:30 から 19:40 まで、Auditorium(講堂)I で行われた。このワークショップも前回クアラルンプールに続く開催である。前回の会合の内容を前提にさらに踏み込んだ議論を行う、と前触れされており、簡単な知識の説明をする時間は実際取られなかった。内容は

第 I 部 アフリカ地域における IDN の発展

第 II 部 パネルディスカッション「IDN アプリケーションの発展」

第 III 部 パネルディスカッション「IDN ポリシー問題とプロセス」

の 3 つで構成されていた。第 I 部では、まずイラン(アフリカではないが)におけるペルシャ語ドメイン名の登録に関する話題が IRNIC の人から紹介された後、アフリカにおける多種の言語の文字の Unicode 表現に関する話題へと移った。アフリカの言語に関しては、Unicode による表現も未だ開発途上にある場合が多いようで、IDN 以前に言語のコンピュータ表現そのものを解決しなければいけない状況にあることが窺えた。

第 II 部では、各国における IDN 登録についての取り組みや、レジストリソフトウェア、アプリケーションプログラムの IDN 対応への取り組みが各パネリストから紹介されたが、特筆すべきはマイクロソフトの技術開発担当者 Michel Suignard 氏が、同社の主

第2部 第2章 ICANN Cape Town 会議

力製品であるインターネット・エクスプローラーの IDN 対応を、Windows の次の版の出荷と同時、或はそれよりも早く行う、と公言したことである。これは、これまで IDN 対応に消極的であった同社として初めての発言であり、聴衆にかなりの驚きを与えた。

第 III 部では、UDRP, whois と IDN の関係、IDN admin guideline で使われる言語テーブルの問題、トップレベルドメイン名での IDN の採用など、ドメイン名管理上の政策関係の話題が取り上げられたが、特に新しい話題や視点が出たわけではなく、問題の複雑性が述べられるに止まった。

2.3. 削除済みドメイン名の再登録に関するワークショップ

このワークショップは 2004 年 12 月 1 日 14:00 から開かれた。GNSO(分野別ドメイン名支持組織)のレジストラ部会と ICANN が協力して開催したもので、取り上げたテーマも会合の運営方法も ICANN に新風を吹き込むものであったと言える。

テーマは第 1 部第 2 章 2.2.4 に説明されている問題、即ち削除されて登録者がいなくなったドメイン名が再登録可能となったときに起り得る登録申請の殺到を避けるためのルール作りである。この問題に対する解決策の候補を提案して貰って比較検討するというのがワークショップの目的である。この問題はかなり以前から多くの人に意識されてはいたが、今回は「可能な複数の長期的解決策(long-term solutions)を求める」と明示して、実り多い議論を目指したことがまず特徴的である。また会議の運営上では、発表を行いたい者は必ず事前に発表資料を投稿し、出席者が事前にそれを読んでおくことができるようにする方式(IETF で行われている方式)を取ることとし、事前に 7 件の投稿があった。さらに、この会議では VeriSign が導入を計画している Wait Listing Service(削除待ちリストサービス, WLS, 第 1 部第 2 章 2.1.2.4 参照)については議論しない、と明言している。本来この問題に対する解決策は、WLS に取って変わる可能性があるわけであるが、WLS とこの問題を絡めて議論すると、利害関係の対立が目立ってしまって、有効な議論を阻害する可能性は確かにある。その一方で、WLS が実装されたとしても、削除ドメイン名の再登録という事態はゼロにはならないので、WLS の問題とは切り離してこの問題を議論することを、このワークショップの開催案内は呼び掛けている。営業上の利害対立で激しくぶつかり合いが繰り広げられているレジストラ部会やレジストリ部会の現状を考えると、このような会議運営の試みは、貴重であると言える。

2.4. ccNSO

ccNSO(国コードドメイン名支持組織)の会合は、12月2日 10:00-18:00、3日 9:00-13:00のメンバー会合と、4日 14:00-16:00の評議会が開かれた。ccNSOは生まれて間もないため、役職者の選挙や事務局機能に関する相談など、多くの事務的な事項の審議に時間を取られている状態であるが、実質的な話題としては、

IANA データベース変更手続き、
ICANN 戦略計画(ICANN Strategic Plan)、
ICANN 予算、
WSIS

が参加者の関心を集めていた。

IANA データベースの変更手続きは、古くから議論されている問題で、ccTLD にとって非常に影響が大きい問題である。また ICANN 予算の問題とは、ICANN 予算に占める ccTLD の分担割合の問題で、かつて 35%という話が出たことがあるが、ccNSO として承服できない、という意見が支配的である。この二つの問題は比較的長い歴史を持った問題であるが、ccNSO が軌道にのりつつあるこの時期に体制を整えて ICANN と交渉しよう、という方向性である。WSIS はワークショップでも取り上げられている問題で、ccNSO に限らず ICANN 参加者の多くが関心を示しており、ccNSO としても関心を持って議論されている。ICANN 戦略計画も広く ICANN 参加者の関心を集めている事項で、ccNSO でも興味を持って議論されたが、これに関して特に決定はなかった。

ICANN 戦略計画については 2.7 の一般討論会のところで詳述する。

2.5. AtLarge 諮問委員会(AtLarge Advisory Committee, ALAC)

ALAC はケープタウンにおいて 11月30日から 12月5日までほぼ毎日何らかの会合を行った。その詳細は第3部 1.4 に述べるので、ここでは省略する。

2.6. 分野別ドメイン名支持組織(GNSO)

GNSO は 12月1日、2日に各部会の会合、3日 8:30-10:30 に GNSO 一般討論会、10:30-12:30 に評議会を行った。

gTLD レジストリサービス変更の承認手続、

第2部 第2章 ICANN Cape Town 会議

WHOIS、
削除ドメインの再登録手続き、
WIPO II(WIPO セカンド・プロセス)、
ICANN 戦略計画、
GNSO Council 自己レビュー、
GNSO 評議会への各部会からの代表数、

などが議論された。

gTLD レジストリサービス変更の承認手続と WHOIS に関しては一定の前進があったことが報告されたが、格別の決定事項は無かった。WIPO II(WIPO セカンド・プロセス) に関しては、WIPO から 11 月中にメールがあった事と作業部会での検討状況が報告されたが、意見が統一されておらず、進展は見られなかった。GNSO Council 自己レビューに関しては、これまでの議論の積み重ねによって作られた文書が承認され、GNSO の効率的な運営に向けて前進があった。Council への各部会からの代表数に関しては、現在暫定的に行われている 3 人を次回アルゼンチン会合まで延長することを理事会に要請することが決議された。

しかしこれらのいずれにも増して熱心に議論されたテーマは ICANN 戦略計画であった。これに関しては 2.7 の一般討論会のところで詳述する。

2.7. 一般討論会(Public forum)

一般討論会は 12 月 3 日 13:00-18:00 と 4 日 8:30-12:30 の 2 回に分けて行われた。多くの時間が報告に費やされた。主な報告事項は、

ICANN 事務総長からの報告、
オンブズマン任命の報告(及び紹介)、
各理事会内委員会報告、
各諮問委員会報告、
各支持組織報告、
2004 年度指名委員会からの報告、
スポンサー付き新 gTLD 導入についての現状報告、
新 gTLD 導入に関する現状報告、
IANA プロセスに関する現状報告、
アフリカ地域の最新動向報告、

ICANN における IDN 関連活動の報告、
WSIS についての現状報告、
GNSO レビューに関する報告、
発効済み及び近く発効予定の新しいコンセンサスポリシーに関する報告、

などであった。大半の報告に関してはそれほど多くの質疑はなかったが、ICANN 事務総長からの報告で触れられた ICANN 戦略計画と、新 gTLD 導入についての現状報告に関連して出た ICANN 理事長 Vint Cerf 氏の発言に関して多くの質疑が発生し、議論が沸騰した。この二つについて以下に少し説明を加える。

まず、ICANN 戦略計画(ICANN Strategic Plan)であるが、事の発端は 2004 年 10 月 31 日にアナウンスされた ICANN 戦略計画に関する日程と、11 月 16 日発表された ICANN 戦略計画にある。

3 年に跨る ICANN 戦略計画の立案というのは、それ以前には予告されていなかったもので、また、一応コメント受け付けは行うものの、支持組織などの承認は無しに、理事会の承認を直に求める予定であるという。その決定プロセスに多くの人が疑問を感じながらケープタウンに集まったが、GNSO の部会会合などの場で事務総長を招いて聞いた説明では、3 年間の予算立案などの基礎としてこの ICANN 戦略計画を使うとの事で、多くの人の疑問は増大した。何故ならば、ICANN 戦略計画に事務総長の説明通りの効力が与えられるとすると、例えば予算の決定は従来 Budget Advisory committee などの審議を経ることが恒例となっていたものが、審議過程が全く変わってしまうからである。このように多くのことを変更してしまう重大な決定を、十分とは言えない長さのコメント受付期間で、しかも支持組織での意見聴取や承認無しで行って良いのか？という疑問が挙った。これに対する事務総長 Paul Twomey 氏の返答は、「ICANN 戦略計画には拘束力はない」とか、「十分に意見聴取はやる」という、まことに頼りないものであった。結果として本件の進め方の稚拙さを露呈していた。本音は WSIS の場で ICANN が外圧にさらされている状況で、ICANN を外に向かってアピールする手段として戦略計画立案を進めたかったようであるが、ICANN 内での従来の意思決定プロセスを無視したやり方を皆が黙認するはずはなく、同様の疑問は ccNSO や GNSO 一般討論会などでも出され、一般討論会でも取り上げられた。結局進め方に関しての軌道修正が翌日の理事会で決定されることになった。

なお、ケープタウン会合の後の出来事であるが、2005 年 1 月 13 日の GNSO 評議会電話会議での Marilyn Cade 氏の提案により、アムステルダムで ICANN 戦略計画に関して ICANN 事務局と GNSO の会合が 2 月 7 日と 8 日に開かれることになった。ICANN の通常の会合とは別の場所・日時にこのような(通信手段によらない)直接対話が

第2部 第2章 ICANN Cape Town 会議

ICANN 事務局と支持組織との間で行われることは珍しい。この件の重大性を認識した上での GNSO 評議会での決定であったと言えるであろう。

次に新 gTLD 導入についての現状報告に関連して出た ICANN 理事長 Vint Cerf 氏の発言であるが、これは「gTLD をそんなに増やす必要があるのか？」という発言であった。理事長は、純粋に技術的に見れば gTLD は増やす必要はない、と言いたかったようであるが、これには多くの参加者が、長年の ICANN 活動の前提を引っくり返す発言として強い衝撃を受けた。元々 gTLD を増やす話は技術の話では無く、社会的要請の話であったわけで、「今更話を引っくり返さないで欲しい」という趣旨の発言が一般参加者のみならず、理事の中からも出た。結局理事長はこの件に関する発言を最後は諦めたが、後味が悪い出来事であった。

以上が一般討論会の概要である。

2.8. 理事会

理事会は 12 月 5 日 8:00-9:45 に開かれた。主な決定事項は、

ICANN 戦略計画のドラフトへの意見募集期間の延長、
.net 新レジストリ運用者募集要項の承認、
アドレス支持組織(ASO)との新覚え書き調印の承認、
GNSO 評議会への代表を各部会から 3 名とする措置を 4 月まで延長する件の承認、
WIPO セカンドプロセス(WIPO II)に関して検討を継続する件

であった。他には、組織運営上の事項として ICANN 会合開催地の決定、理事会統治委員会からの提案案件 2 件の承認、各種委員などの任命と任期満了役員に対する謝辞、ケープタウン会合開催関係者への謝辞の議決があった。なお、理事会の構成員が今回会合で変わるため、理事会閉会後に新理事会を短時間開催して理事長、副理事長などの選出を行った。

2.9. 視覚障害者のためのインターネットアクセスに関する会合

12 月 5 日 14:30 から開かれたこの会合は、元来 ICANN の会合とはあまり関係無い内容であるが、ICANN ケープタウン会合の案内にはこれが掲載されている。その理由は、ICANN 会合が開かれた国際会議場で翌 6 日から世界盲人連合の第 6 回大会が開かれるため、これに敬意を払って ICANN 会合の最後に ICANN と盲人を結び付けるこのテーマでの会合が企画されたものであろう。会合の内容にはここでは触れないが、この事実

からケープタウンの方々の一種の熱意を感じ取ることができるであろう。実際国際会議場のスケジュールを見ると、この他にも色々な会議が予定に入っていて、多くの国際会議を招致している努力が感じられた。ICANN ケープタウン会合も、そのような熱意によって開催可能になったことが察せられる。

第2部 第2章 ICANN Cape Town 会議